

2000. 8/21 南海田



パイプオルガン奏者の

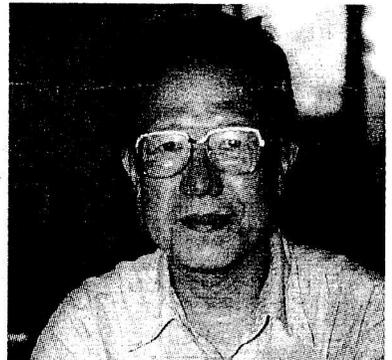
酒井 多賀志氏

が魅力だ。島唄との出合いは九二年。奄美を代

日本を代表するパイプオルガン奏者。奄美の島唄と出合って十年、奄美ツアーを始め

地元唄者と共演も

など楽しみな企画が盛りだくさんだ。「奄美の島唄は本土の民謡と



1972年東京芸術大学オルガン科修了。81年入賞した「SURAI」を始めた。ASの超え。54歳。

大きな楽器。持ち運びはできない。そこで考えた。九八年にパイプオルガンの音を記憶させ

かお



島唄と共演するパイプオルガン演奏家

酒井 多賀志さん

五十歳になった今年、一念発起して自動車免許取得に挑んだ。大学の教え子からは

「四段階の試験をすべて一回でパス」、見事に免許を手にした。それからわずか一カ月

てパイプオルガンの古典作品のほか、オリジナル作品、坪山さんと共演する島唄を披露、各地の聴衆を魅了した。

「外国の楽器としてのオルガンのイメージを壊したい。日本の楽器と結び付くことで、オルガンを日本の楽器にした」と島唄、尺八、琴などと積極的に共演している。

初めて音を合わせたときから、いけるって感じ

東京出身。八三年、島唄、六調などの調査で徳之島に入った妻正子さん(湘南女子短大教授)に同行したのが奄美との出合い。九〇年、坪山さんと知り合い、島唄との共演が始まる。「初めて音を合わせたときから、これはいけるって感じていた。以来、関東などの演奏会で数多く共演、好評を得ている。

今回の免許取得と車、特注オルガンの購入は、大学の休みに「気軽に全国を演奏旅行に回るため」。ただし、今のところ、もっぱら奄美通いを続ける予定だそうで「来年の今ごろ、また、お会いできると思います」。東京都八王子市片倉町で妻、娘二人と暮らす。(大島支社・鈴木達二)